



ごほんぞん
ご本尊

アフターケア通信

2

月号

節分

善し悪しのころ

コ ラ ム

仏さまのご縁とお恵み

とき
お齋

真宗では、年忌法要や報恩講などの仏事の際、持ち寄った米や野菜を調理して、皆でいただく食事を「お齋」と呼び親しんできました。

お齋は精進料理が基本です。「精進」や「齋」には、「つつしみ」や“身をただしていく”という意味があり、これは殺生を戒める仏教の考え方からきています。私たちは日頃の生活の中で、食べることを当たり前のこととしていますが、お齋は食事をとおして「いのちをいただく」ことの意義と尊さにふれていただく大切な仏事の一つです。



◀真宗本廟(東本願寺)のお齋

しょうたい つるかめ
表紙イラスト「燭台(鶴亀)」
…ロウソクを立てて火を灯すための台。



今月の門徒さん

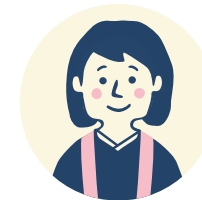
「孫との豆まき」

綾戸 秀美さん (八女組 浄徳寺)

孫たちが小さいとき、節分に豆を買ってきて、孫に鬼のお面を着けさせようとしたら、「鬼はイヤ」と嫌がられました。慣習や風習を話しても、不満そうで納得しませんでした。

続けて孫から「福って何」「鬼さんは何も悪いことしてないのに」「鬼さんをいじめないで」の言葉が出てきました。私は返す言葉もなく、ただうなずいて考え込んでしまいました。何か大事なことを教えてもらった気がします。

あれから十五年が過ぎ、彼らも大人になりました。そして今年も我が家は静かな節分の日を迎えています。



子どもならではのエピソードで可愛いですね。子どもは鋭い感覚をもっていますから、時に大人の方が考えさせられます。

kyushu-kyoku

九州教区



発行：真宗大谷派 九州教区教化委員会

〒830-0038 福岡県久留米市西町 540-1 TEL.0942-32-3056

節分



鬼は外？福は内？

「節分」は読んで字の如く季節の分かれ目という意味で、本来は立春・立夏・立秋・立冬前日のことですが、現在では特に立春の前日をいうことが多いようです。節分に豆まきをずる由来は中国で流行した疫病や災害を追い払うための儀式と言われていきます。

日本では季節の変わり目は鬼（邪

気）が生じると考えられ、節分にその邪気に豆（豆は魔目・魔滅に通じるとの考えから）を投げて追い払い「無病息災」を願う行事として広がっています。その時、「鬼は外、福は内」と当たり前のように声をかけますが、「鬼とは何か」「福とは何か」と考えたことはあるでしょうか。

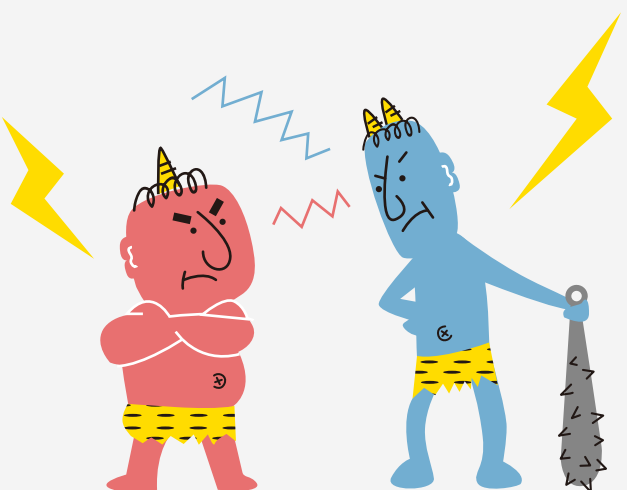
「鬼」って何？

おとぎ話や昔話では、鬼は人の姿で描かれることが多いようです。これは何を意味しているのでしょうか。

私たちは、普段仲の良い相手でもふとしたことがきっかけで腹が立ち、邪魔だと感じることもあります。私たちは身の回り

の様々なひと・もの・ことがらを、自分にとって都合の善いものは福とし、都合が悪いものを鬼と決めつけているのです。もしかすると、常に物事を思い通りにしようとする欲心（＝煩惱）をもつ、

私たち自身が鬼と呼ばれる存在なのかもしれません。



節分を「縁」として

「鬼」と呼ばれる存在は、私たちの外から来るものではなく、自身で作りにしているものなのでしょう。そのような鬼を外に追いやり、福だけをかき集めようとする矛盾をはらんだ私たちの姿を、仏教では煩惱に満ちた「迷い」の姿だと教えています。

節分を単に、善いもの求め、悪いもの

を排除するだけの行事にするのはもったいないことです。せっかく「鬼」や「福」という言葉に触れる機会ですので、仏さまの教えを聞き、「善し悪し」でしかものごとを量れない私たち自身に気づかせていただく「縁」としてはどうでしょうか。

